

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1273100386
法人名	医療法人社団再生会
事業所名	グループホームわかくさ
所在地	〒293-0036 千葉県富津市千種新田676-6 (電話) 0439-65-5678

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年11月8日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(19年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤3人, 非常勤9人, 常勤換算9.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他	食51,000+水光熱15,000+実費	
敷金	有(200,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(原状回復工事費との差額)	有りの場合 償却の有無	有(期間:1ヶ月以内)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	100×2 円
	または1日当たり 1,700 円			

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	君津中央病院大佐和分院 鈴木医院 じん歯科医院
---------	-------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

外房線大貫駅から徒歩5分に位置し、開設から4年目のホームである。太陽の光がさんさんと入り、広いベランダが目につく平屋建ての施設は、清潔で明るい。広い敷地内には、入居者が作業する菜園もある。交通量が多い道路に面し、安全の確保に留意が必要である。管理者の交代や職員の異動が多いが、経験のある職員を中心に日々のケアを進めていて、職員の明るい笑顔と入居者の落ち着いた表情が印象的である。管理者の交代が多かったためか、介護計画の見直しが最近はされていない。「笑顔がすべての答え」の理念を、入居者・家族・職員・地域が共有し、チームケアを一層進めることが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 理念の明示・プライバシーの保護・研修の積極的受講・地域との交流が主な改善項目であった。日中、外から丸見えだった透明ガラスに薄手のカーテンをかけ、プライバシーの保護を図るなど一部改善がみられた。しかし組織全体で改善点を検討していない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が毎日みる業務日誌(ミーティングシート)に自己評価票を添付し、意見を書くよう要請したが、ほとんど記入がなかった。管理者が、一部職員の意見を聞きながら作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2、3ヶ月に1度開催され、市職員や警察も出席している。法人の理念や現状の報告、行事予定・報告のほか、意見交流をしている。警察からは、入居者の着衣への記名、市役所からは地域との交流、ボランティアの活用といった意見が出され、今後の課題としている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に意見箱を設置している。家族会はないが、面会や行事参加時に、意見・要望などを聞き、運営に反映させるよう努めている。毎月「わかくさ通信」を発行し、ホーム全体の様子を知らせるとともに、入居者の様子を書いて送付している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎日、食材を購入するために、入居者と一緒に近所のスーパーマーケットへ出かけている。隣接する鉄工所や接骨院とも交流している。町内会には加入していない。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の中で「普通の暮らし」ができることが、重要事項説明書にホーム理念として掲げられ、また「笑顔がすべての答え」が運営推進会議の配布資料にホームの理念として書かれている。		理念を、居間の壁などに大きく表示すれば、今以上に理念が共有されると思われる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員の異動は多いが、経験者が新人に声をかけ、日々のケアの中で理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の幼稚園との交流、納涼祭で地域住民に参加してもらうことなどを検討している。町内会にはまだ加入していない。		ホームの敷地を活用し、地域の人々が楽しんで参加できる行事などの取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義を理解している職員もいるが、全員が理解するには至らず、自己評価への意見反映も十分とはいえない。改善点は一部改善したものの、ホーム全体での取組が課題である。		質の高いケアを目指すには、職員一人一人の自己評価が大切である。自己評価のためのミーティングを設定するなど、さらなる取組が期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2、3ヶ月に一度運営推進会議を開催し、理念や現状を説明している。出された意見を反映させ、ケアの質向上に結びつけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に連携している。地域行事への参加などについて、助言してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「わかくさ通信」を毎月発行し、ホーム全体の様子を知らせるとともに、個別にも状況を報告している。状態変化があったときは随時連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見の反映に努めている。家族会はないが、面会時や行事への参加時に意見や要望を聞いている。		家族の意見、苦情、要望を受け止め、個別のケアに生かすだけでなく、介護計画に反映させていくことが期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員の異動は多い。入居者の担当は決めているが、ホーム全体でケアし、入居者の不安をカバーすることにも気を配っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	保健所の感染症研修に参加している。研修によっては、応募者が多く参加できないこともあり、各種研修に全職員が参加しているわけではない。		一部ではなく、全職員が交代で参加できる取組みが求められる。研修後は資料を回覧するだけでなく、ミーティング時に研修成果を還元する機会を設けることが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は必要性を認識しているが、今後の課題となっている。市役所に相談し、交流する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者の経歴を確認し、ケアをする中で反応を見ながら、徐々に馴染めるようにしている。</p>		<p>入居時に、家族の意見の記載がない入居者が見受けられた。家族の希望を十分反映させた支援が期待される。</p>
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食材の買い物、調理、後片付け、洗濯物たたみ、菜園の手入れなどをしてもらっている。職員は人生の先輩である入居者と触れ合い、その笑顔に支えられている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員が入居者と出来る限り多く話しをすることで、一人ひとりの思いの把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族に介護計画の説明はしているが、意見や要望を聞き出す点が十分でなく、チームで作成する介護計画書となっていない。家族に計画書の承認を得ることも行われていない。</p>	○	<p>常日頃家族と話し合う機会を多く設け、現場職員の気づきや意見なども反映させ、介護計画を作成することが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者の交代が、短期間で2回ほどあり、カンファレンス、担当者会議、モニタリングなどがされおらず、介護計画書の見直しも行われていない。</p>	○	<p>法人内の支援事業者から、管理者兼計画作成担当者が就任したので、今後の取組が期待される。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでの入浴が困難な入居者には、法人内の老健施設で機械浴の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は、入居前からのかかりつけ医で受診している。かかりつけ医の通院に家族が付き添えない場合は、職員が対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアに対する具体的な話し合いは行われていない。重度化した場合は、母体の老人保健施設で対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉かけは見られない。介護計画書や介護日誌は事務所で保管し、重要な個人情報には施錠した書庫で保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝早く起き活動する人、食事に時間のかかる人など、各入居者のペースを尊重しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な入居者が、職員と一緒に昼食の準備をしている。肉の嫌いな人には他の献立を用意するなど、臨機応変に対応している。職員も一緒に会話しながら楽しく食事している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低でも週2～3回の入浴支援を行っている。入浴を拒否する場合は、時間をあけて声かけするなど、なるべく入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園作りや、食事作りなどを職員と一緒に張り切って行っている。お花見や紅葉狩り、ホーム総出で行われる年1回の一泊旅行を、全入居者が楽しみにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近所のスーパーへの買い出しに、毎日出かけている。外食にも月1回出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室の掃きだし戸が脇道に面しており、危険防止のため鍵をかけているが、玄関は職員が目配りで鍵はかけていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網は出来ているが、避難訓練などの災害対策が実施されていない。	○	災害を想定した避難訓練を定期的に行うことが必要と思われる。緊急時には地域の協力が得られるような働きかけが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立表を使っており、入居者の希望でメニューが変わることもあるが、栄養バランスは概ね確保されている。水分制限のある方には配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの各テーブルには生花が飾られている。入居者の手作り品や写真などを室内に飾れば、一層温かな雰囲気ができると思われる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には入居者の思い出の家具が持ち込まれ、居心地よい雰囲気となっている。ドア中央に長い透明ガラスがはめ込まれており、プライバシーの観点からは配慮が求められる。		